

JAえんゆう広報誌

ひざし

2014 1

No. 179

謹賀新年

ひざし

2014.1月号 No.179

今月の主な記事

新年のご挨拶

| | |
|--|-------|
| えんゆう農業協同組合 代表理事組合長 中川 菊夫 | 2 |
| 網走農業改良普及センター 遠軽支所 支所長 五十嵐 強志 | 4 |
| 北海道農業協同組合中央会 会長 飛田 稔章 | 5 |
| JAえんゆう青年部 部長 安本 崇 | |
| JAえんゆう女性部 部長 新国 妙子 | 6 |
| 一日皆貯金当選者発表 | 7 |
| 平成25年度役員道外研修視察を終えて | 8～9 |
| 秋季農事部懇談会 秋季農事部懇談会の主な意見・要望 | 10～11 |
| フレッシュミズ一泊研修を開催 | |
| フレッシュミズ合同研修を開催 | 12 |
| JA女性部が星澤幸子氏の講演会を開催 | 13 |
| 全道JA青年部大会に参加してきました 青年部酪農部門視察研修開催しました | 14 |
| JA青年部が子ども農業体験学習を開催 酪農学園大学地域交流協議会蹄病講習会開催 | 15 |
| 上湧別産玉ねぎを仙台市内のスーパーでPR! 上湧別玉葱振興会青年部がPR研修を実施 | 16 |
| えんゆう機械センターより | 17 |
| 営農計画書作成協議日程 | 18 |



今月号の「いもたま作造くん」はお休みさせて戴きます。

「クロスワードパズル」「当選者発表」「読者の声」は休載させていただきます。



表紙写真：遠軽町白滝天狗平からみた日の出

組合長新年のご挨拶

えんゆう農業協同組合 代表理事組合長 中川 菊夫



組合員の皆様、新年明けましておめでとございます。平成二十六年の輝かしい新年を、ご家族の皆様とともに壮健にて迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

昨年、新政権「アベノミクス」により、日経平均株価が一万五千円台を突破するなど、国内成長率は2%を示し、経済成長は確実に加速しています。今後、実体経済として賃金所得が上昇し、内・外需の拡大が図られ、デフレを克服するとともに景況感の高揚を増す一年となること

を更に期待します。

さて、昨年は春先から寒い日が続き、雪解けも遅く、四月中旬以降は寒暖の激しい不安定な日々が続きました。下旬にかけては降雪・降雨・低温と、近年にない愚図ついた天候となり、芋・ビート等畑作物の蒔きつけ時期は、平年より二週間以上遅れ、玉ねぎの苗は移植前に結球がみられるなど、心配な春耕作業のスタートとなりました。六月以降は、天候も回復し比較的温暖な気候を迎えましたが、干ばつ傾向は八月中盤

まで続き、一部灌水の出来る地域を除いては、春先の移植・播種の遅れなど農産物の成育と収穫量に大きく影響を与える結果となりました。

玉葱については、移植の遅れはありましたが、灌水機散布により平年並みの収量を確保し、市況についても高値で安定しています。南瓜についても、エビス・クリともに平均で1.5tと平年並みとなりました。しかし、畑作青果全般については、平年作を下回る残念な結果となりました。小麦については雪解けの遅れ

謹賀新年

平成二十六年 元旦

えんゆう農業協同組合

代表理事組合長 中川 菊夫
代表理事専務 山口 哲朗

| | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 菅井 誠 | 菅井 誠 | 菅井 誠 | 菅井 誠 | 菅井 誠 | 菅井 誠 | 菅井 誠 | 菅井 誠 | 菅井 誠 | 菅井 誠 |
| 菅井 誠 | 菅井 誠 | 菅井 誠 | 菅井 誠 | 菅井 誠 | 菅井 誠 | 菅井 誠 | 菅井 誠 | 菅井 誠 | 菅井 誠 |
| 菅井 誠 | 菅井 誠 | 菅井 誠 | 菅井 誠 | 菅井 誠 | 菅井 誠 | 菅井 誠 | 菅井 誠 | 菅井 誠 | 菅井 誠 |

春先の天候不順により欠株が多くみられ、収穫時期こそ雨も降らず低水分高品質と刈取りは順調に進んだものの、収量は6・8俵と昨年を2俵近く下回りました。ビートについては糖分量こそ昨年を1・6%上回り17・3%となったものの、収量では平均で4・2tと昨年を1・2tも下回ってしまいました。馬鈴薯は加工・生食ともに3・3t、55俵程度と平年を下回りましたが、正品率は高く、比較的良い出来となりました。シソについては、莖葉量はありましたが、蒸留後の油が2kg程度と近年にない不作となりました。昨年の大きな特徴としては、干ばつ傾向から灌水地域であるかないかで、作物の出来に大きく格差がついたこと、白滝地区が地道な土地改良の成果か、比較的安定した畑作物の収量があったことがあげられます。

一方酪農においては、加工原料乳補給金単価が三五銭、道内プール乳価で約七〇銭と小幅な値上げに留まり、生乳生産状況は、全道、オホーツク地域においても前年割れが続いております。当組合においても、一戸当たりの乳量は、頭数ともに増えているものの、離農による酪農家戸数の減少など、生産乳量は（一〇月末実績）前年を1・4%下回っております。また、育成・初妊牛の個体価格については、酪農経営の大規模化傾向と個々の搾乳意欲に支えられ、

前年に続き安定的価格で推移しました。

現在の酪農環境は、円安などの影響で配合飼料価格の高止まり、生乳需給の逼迫などのほか、値上がり傾向を続ける燃料価格など、このまま円安基調が進めばより厳しい環境になることが予想されます。又、畑作同様干ばつによる牧草の収量減が見込まれたことから、輸入乾草の斡旋と奨励施策を取らせていただきまし

た。今年も酪農生産基盤の拡充・強化と、組合としてコントラクターの充実と効率化、TMRセンターへの建設支援、育成センターの事業充実など、生乳増産体制などの多面的支援をより一層進めてまいります。また、系統組織にあっても総力を結集し、新年度の乳価交渉と生産資材価格の低廉化への努力に期待するところです。今後とも組合員の皆様には、乳製品消費拡大へのご協力をよろしくお願いいたします。

結を急ぐ必要などどこにもありません。基本は「今すぐ、交渉撤退！」です。万が一にも関税が撤廃されるようなことがあれば、道内農業は、壊滅的打撃を受ける事は言うまでもありません。当組合としても「T P P交渉問題」については、系統組織と強く連携し交渉参加反対の意思を強く示してまいります。政府には国内農業、なかならず北海道農業を守るといふ明確な政策指針を見失うことなく、地域農業振興の基本政策である「人・農地プラン」等を押し進め、農政の基本である食料自給率を先進国として恥ずかしくない目標値まで押し上げていくことを期待します。

安心・安全な食糧を安定的・継続的に国民に供給することは、国を守り国民を守ることにつながり、それは、食糧を生産する我々農業者にとつて「使命」と「誇り」です。そして、食料産業の原点にある農民が尊ばれ、安心して営農に従事し、持続可能な経営を保證することが、農村地域の振興と地域社会を発展させることと確信いたします。

年の初めに当たり、組合員・ご家族の皆様のご健勝とご多幸、本年の五穀豊穣を願う社会平穏なる一年であります事を、心よりご祈念申し上げますとともに、系統結集への更なる御理解と御協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

| 酪農専門部会 | | ビート専門部会 | | ブロッコリー専門部会 | | 玉葱専門部会 | |
|--------|--------|---------|-------|------------|--------|--------|-------|
| 理事 | 佐藤 克哉 | 理事 | 岩城 健治 | 部会長 | 平野 寿雄 | 部会長 | 花木 慶喜 |
| 代表監事 | 久須田 栄治 | 部会長 | 石田 昭夫 | 副部会長 | 野田 秀利 | 副部会長 | 井上 靖 |
| 常勤監事 | 佐藤 直行 | 部会長 | 渡辺 健一 | 副部会長 | 大河原 正一 | 副部会長 | 山田 忍 |
| 監事 | 石丸 政雄 | 部会長 | 前島 英樹 | | | | |
| 参事 | 小倉 武 | | | | | | |
| | 高橋 淳 | | | | | | |
| | 井上 伸一郎 | | | | | | |
| | 馬場 秀人 | | | | | | |
| | 職員 一同 | | | | | | |

新しい年を迎えて

網走農業改良普及センター遠軽支所 支所長 五十嵐 強志

強志



新年あけましておめでとうござい
ます。輝かしい新年をご家族お揃い
でお迎えのことと心からお慶び申し
上げます。

さて、昨年からの日本の農政ではT
PP参加交渉、米政策や経営所得安
定対策の見直しなど大きな転換期を
迎えています。一方、農業生産に大
きく影響する気象に關しても、近年
では予想をはるかに超える暴風雪や
台風・豪雨などによる被害が多く発
生し、異常気象とされる気象変動に
も対応していくことが求められてお
ります。

昨年の遠軽町の気象及び作況を振
り返りますと、融雪期は昨年より六
日早まったものの、四月下旬からの
降雪を含む天候不順で、は種・植え
付けが十日から二週間程度の遅れと
なりました。五月から九月までの平
均気温の積算は平年比102%と平年並
降水量は平年比130%と八月以降に多
くなり、日照時間は平年比九五%と
やや少ない年でした。農作物全般に
渡って、春の天候不順と六く七月の
雨による影響を大きく受けた年であ
りました。

秋まき小麦は高い製品歩留となり

ましたが、穂数不足と登熟期間の短
縮によって前年産より減収となりま
した。二十六年産に向けては安定確
収を目指して、春の融雪促進と起生
期以降の生育に應じた栽培管理の徹
底が重要であります。

てんさいは春のは種・移植遅れと
六く七月の少雨の影響を大きく受け
、糖度は平年並からやや高めとなりま
したが、収量は平年を下回りました。
特に春の植え付け作業が遅れた排水
性の悪いほ場では大きく減収してお
り、心土破碎の実施や活着後の畦間
サブソイラの施工によって根張りを
促し生育を確保することが大切です。
たまねぎは移植遅れと六く七月の
少雨の影響によって他産地が大きく
減収した中で、かん水による生育量
の確保、長年の土づくりと輪作の励
行によって平年並の収量が確保され
ており、成果が現れた年となりまし
た。

飼料用とうもろこしは、は種作業
が遅れ、出芽ムラによる生育差がみ
られたものの、生収量、乾物収量と
もにほぼ平年並となりました。牧草
は六く七月の少雨の影響を著しく受
け、一番草は減収、二番草は少雨で

伸びずに収穫が遅れ、品質もほ場間
でばらつきが大きく、牧草の確保に
大変苦勞の多い年となりました。収
穫された粗飼料の栄養価の確認とき
め細かな給与管理に努めることが不
可欠な技術であり、今年も安定した
生乳生産に向けた取組を続けられる
ようお願いいたします。

地域の農業を支える担い手の確保
状況に目を向けますと、当地区を含
て全道的にも、農業者の減少を補う
新規就農者（新規学卒、Uターン、
新規参入）の確保は十分とは言えな
い状況が続いています。担い手の育
成確保をはじめ、規模拡大への対応
など、持続的な農業経営が可能とな
る体制づくりへの取り組みを進めて
いく必要があります。

農業改良普及センターでは、活力
ある地域農業づくりのために職員の
総合力を活かし地域の課題に取り組
んでまいりますので、皆様のご協力
をお願い申し上げます。

皆様のご健勝と豊穰の秋を共に迎
えられることを心からお祈りし、新
年のご挨拶といたします。

麦作専門部会

部会長 中川 雅元
副部長 山口 秀雄
" 北村 満

特作専門部会

部会長 岡村 英巳
副部長 中川 隆司
" 大河原正一

畜産部会

部会長 高谷 慎二
副部長 林 秀幸

農機推進委員会

部会長 志鎌 輝嘉
副部長 菊池 隆行
" 草野 敏弘

えんゆう農協青年部

部長 安本 崇
副部長 片岡康太郎
" 三品 拓也

えんゆう農協女性部

部長 新国 妙子
副部長 松浦三代紀
" 斉藤三千代

平成二十六年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会 会長 飛田稔章



組合員並びにJA役職員の皆様方

には、希望に満ちた平成二十六年の新春を迎えられますことを心よりお慶び申し上げます。昨年の北海道農業は、天候不順により一部地域で農作業や生育の遅れが生じ、台風や大雨等の被害にも見舞われました。そのような中、各種課題を克服しながら、一年間の営農にご尽力されたことに対して、改めて敬意を表します。

平成二十五年は、国内外ともに、まさに激動の年でありました。TPP交渉につきましても、三月の交渉参加表明以降、交渉参加反対のもとで、関係機関・団体と連携をはかりながら、各種運動を展開致しました。かねてより懸念していたとおり、情報開示が極めて不十分な中、秘密裏に交渉が進行し、予断を許さない不透明な状況が続いておりますが、自民党並びに衆・参農林水産委員会の決議を順守し、状況によっては脱退も辞さない覚悟のもと、それぞれの国の事情に十分配慮した対応がなされるよう、政府・与党への強力な働きかけと併せ、国民世論形成に向け粘り強い運動を展開していく必要が

あります。

過般、政府は我が国農政の柱のひとつである米政策を大きく転換し、それに伴い各種助成金体系や経営所得安定対策の見直し、日本型直接支払制度の創設等がなされました。短兵急な政策転換に対して、生産現場では不安と混乱が渦巻いておりますが、改めて生産現場における取組み状況を十分検証しながら、生産者が意欲と将来展望を持って経営展開ができるよう、より実効性のある仕組みを確立していくことが重要であります。また、政府は成長戦略の実現に向けて、農業・JA改革を課題のひとつに取り上げ、産業競争力会議や規制改革会議等において関連する議論を行っております。これら規制改革の動きに関しては、農業の役割や生産現場の実態に関する基本的な認識が十分でないことに大きな原因があり、北海道のような農業専業地帯の実情やJAグループの取組み状況等を十分踏まえた議論がなされ、本道農業の持続的発展に資するような政策が確立されるよう、働きかけを強化していく必要があります。

平成二十四年十一月に開催した第二十七回JA北海道大会において、「持続可能な北海道農業の実現」と「次代を担う協同の実践」について決議致しました。平成二十六年度は実践二年目にあたりますが、時代の変化を踏まえた中で、JAグループの組織・事業機能の充実強化に向けた自らの取組みを進めつつ、一般消費者に対する情報発信を行いながら、本道農業並びにJAの強力な応援団づくりを進めていくことが重要であります。

国内外の情勢がめまぐるしく変化している昨今であります。今一度足元を見つめ直し、生産者の方々はじめJAグループ関係者の意志と知恵を結集した中で各種課題を乗り越えていくという強い信念と実行力が求められています。現在の地域農業やJAの基盤を築いた我々の先人も、その時々々の時代背景のもとで、さまざまな困難に立ち向かってきたものと存じます。当然のことながら、JA・連合会も「組合員の営農と生活を守り向上させる」という目的を踏まえ、最大限の

努力を傾注していかねばなりません。

さて、過般、日本の「和食」がユネスコ（国際教育科学文化機関）の世界無形文化遺産に登録されることが決定的になりました。我が国の食文化の素晴らしさが世界的にも認知されたわけですが、そのことは、素材である我が国の農畜産物が評価されたといっても過言ではなく、日本の食料供給基地である北海道の果たす役割も極めて大きなものがあると存じます。国民の命に直結する農業は、我々の先代が永きにわたり、労苦を惜しまず築き上げてきたものであり、その役割・重要性は将来にわたり、いささかも変わるものではありません。農業は、国家百年の計に立った中で、将来にわたり引き継いでいくべき重要な産業であり文化であります。

今年の干支は、午年（うまどし）です。予断を許さない情勢が続いておりますが、馬のごとく力強く、また、さっそうと駆け抜けていく気概をもって頑張りましょう。結びになります。本年が天候に恵まれ実り多い年となりますよう、併せて、北海道農業並びにJAグループ北海道の一層の発展を心よりご祈念申し上げます。新年にあたってのご挨拶といたします。

新しい年を迎えて

J A えんゆう 青年部

部長 安本

崇



新年あけましておめでとうござい
ます。

平成二十六年の新春を迎え、青年
部部員ならびに農業関係者の皆様は
は心よりお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、春先の積
雪により植え付け作業が大幅に遅れ、
その後の干ばつにより農作物、飼料
作物共に期待した品質、収量が低下
し、大変な一年だったと思います。

青年部活動では、例年実施してい
る産業廃棄物回収、各種町主催事業
への協力、オホーツク農協青年部協
議会、北海道農協青年部協議会など
上部団体への参加、PR活動、上湧
別小学校四年生を対象とした農業体
験学習など行ってまいりました。

オホーツク農協青年部協議会の主
催でサンドーム北見にて開催された
オホーツク農業祭では、産直市、食
育コーナーでの農産物の解説、試食
かぼちゃランタンやバター作り体験
を行い、消費者と触れ合うことで農

業への理解を深めてもらうことが出
来たと感じております。

その他の事業につきまして各関係
者の皆様、部員の皆様の協力により
円滑に進められたことにお礼申し上
げます。

また、TPP（環太平洋経済連携
協定）への参加表明に伴い、農業を
取り巻く情勢はいっそう困難な状況
にあります。一致団結し日本の農
業を守り、そしてよりよい農業へ発
展をめざし、進んで行かなければな
らぬと思っております。

今後の青年部活動におきまして、
部員相互の団結を固め、積極的な事
業展開に取り組み、個々の営農意欲
の向上、活力ある青年部作りに励ん
でいきたいと思っております。

最後になりましたが、本年も各関
係機関および各部員の皆様の一層の
御支援と御協力をお願い申し上げます。
新年の御挨拶といたします。

新年にあたり

J A えんゆう 女性部

部長 新国 妙子



新年 明けましておめでとうござ
います。

平成二十六年の新春を迎え、女性
部員ならびに農業関係者の皆様には
平素より女性部活動に対しまして深
い理解と暖かいご支援を賜り心から
感謝申し上げます。

昨年は、日本の和食がユネスコの
世界無形文化遺産に登録されました。
日本は南北に長く四季が明確で豊か
な自然があります。そこで生まれた食文
化があります。昔からのお母さんが
作り楽しみながら食べ続けてきた、
その数千年に及ぶ積み重ねが、日本
の食文化を作り上げたのです。

栄養的に見ても素晴らしく、世界
に誇るこの出来る日本食が、人類
の遺産として保護、継承されること
は意味の深いことです。

しかし、その一方では、TPPへ
参加したいから、大企業が活躍しや
すい国にしたいからと、農業政策を
変え、小さな農家には退場してもら
うという、当の農家が望んでいない
ことを勝手に進められる政治は許さ
れるのでしょうか。

昨年十一月には、星澤幸子先生を
迎えて講演会を開催することが出来
た女性部にとっても大変貴重な体験を
させていただきました。

その講演会では、「食べることは
生きること」何を食べるかで、どう
生きるかが決まってくる。人の体

に良い物でなければ食ではありませ
ん。余分なものを太るくらい量を
食べる必要はなく、ご飯とみそ汁、
一汁一菜の膳をちゃんと飲んで食
べて下さい。食事は昔から、「腹八分
目で医者いらず。腹七分目で病知ら
ず。」と言うそうです。

また、身土不二の言葉から、「その
土地で育ったものを食べて生活する
のが最善。」とし、日本の将来を考
えるとき、世界中から安易に食べ
物を買って生活する事より、国内で
育った安心安全な食べ物をいただく
ことの大切さを教えているのではな
いでしょうか。

私たちは毎日に食に関わっています。
元気なお母さんがいることで生き生
き暮らすことが出来ます。それが、
元気な農業に繋がっていくのではな
いでしょうか。皆が元気であるよう
に、共に学び、共に考え、実践して
いくことが大切なのです。そして、
女性部が情報交流の場であり、居心
地の良い場所であってほしいと思
います。

今年も、豊かな暮らしと活力ある
地域づくりを実践し、消費者の皆様
に安全、安心な農作物を届けること
が出来よう、より一層取り組んで
いきましよう。

最後に、平成二十六年が良い年と
なりますよう祈念して新年の挨拶と
させていただきます。

一日皆貯金 当選者発表！

〈特賞〉(五名)

七、九六九円(税引後入金額)
 三品美代子 吉田 耕造
 木暮 明寿 荒井 芳子
 大熊 佳代

〈金賞〉(十五名)

三、九八五円(税引後入金額)
 樋口ミヨ子 森谷 貴子
 穴戸ミヨ子 鈴木 武文
 牧野 正俊 原田あゆみ
 木元 節子 菊地 瑞奈
 益山 陽菜 米倉 和信
 矢久保幸子 片山 友和
 木村 美紀 石川 定幸
 中山 義徳

〈銀賞〉(三十五名)

二、三九一元(税引後入金額)
 須藤 正子 林 利之
 花木 伸一 会田美津子
 島上 繁 三品 初菜
 安藤 靖子 八巻 成子
 上松 政美 岡村美由紀
 仙庭 時雄 来徳 綾子
 麻植 平治 松浦 洋平
 山田 陽己 牧野 俊介
 穴田 澄子 向平シゲ子

〈銅賞〉(百名)

七九七円(税引後入金額)

藤 千史 梶沼富士江
 佐藤 早苗 鈴木 健大
 佐藤しのぶ 岡村 柚奈
 高木 勝喜 東海林ミイ子
 宇佐美 緑 大江 寿夫
 石山 幸一 川上 広美
 高橋 淳 海老名美代
 安立 瑞枝 三浦 郁子
 笠井ミサ子
 佐野 宣雄 花木 和治
 上松 拓実 三品 拓也
 片岡トシ子 工藤いずみ
 塚本トヨノ 樋口 雄三
 竹内 一徳 井上みどり
 秋葉 治 吉田 和美
 井上 照夫 北村 満
 中村 飛鳥 牧野ユキ工
 梅沢 明美 小林 洋子
 薮 洋子 石田 国子
 八巻 清子 松原光心朗
 斉藤 慎也 高松ひさ子
 横山 笑子 山内三津子
 木村 喜代 天野ユミ子
 松田 信一 中原 雅子

三品 節子 佐藤 敏子
 高橋 義久 斉藤さち子
 花木 蓮 村田 隆二
 大城 宏美 深見 静子
 工藤千恵子 花木 敦子
 中居美枝子 吉村 明宣
 和田 昌子 今野 洋子
 和田 和子 中川 維都
 吉田 昭憲 天野カズ子
 中川 哲夫 杉原ツル子
 馬場 朝二 会田ハル工
 名取 朋代 菖蒲 靖子
 高井 憲子 小林 トキ
 中西 裕子 中川 友広
 原田 篤 高橋 和枝
 村上 睦子 太田 直美
 前島 亜里 向中野 昇
 須藤 順一 高橋 豊恵
 田中智恵子 中嶋 公士
 吉田 真菜 平山紀美江
 太田エミ子 鈴木 幸恵
 中川原明子 前島 和代
 岡村 貴幸 原田萌衣花
 松田 大夢 中嶋美知子
 布施 武 岡村 誠一
 伊藤ミヨ子 高橋 孝子
 青山 光子 河原 宏一

中村 幸男 佐野 雪子
 佐藤 智子 原田 珠英
 佐藤 裕太 佐々木厚子
 高橋はる子 大山 恭子
 菊池 和江 森谷 米子
 吉田眞佐子 森谷 正明
 (有)岩城農場 矢萩ミサ子
 荒冷 学 高橋 玲子

(順不同・敬称略。お名前に誤字等ございましたら、ご容赦願います。)

当選された皆様、おめでとうございます。賞金につきましては、一月末日までに貯金口座に入金いたしますのでご確認ください。
 また、当選された方にはあらためて文書にてご通知申しあげます。

当JAは、今年も皆様のお役に立てる金融機関として貯金業務はもちろん相談業務充実をはかり、皆様のご利用をお待ちしております。

平成二十五年度 役員道外研修視察を終えて

理事 八巻 武 則

十一月十七日から二十一日（四泊五日）、役員二〇名、職員二名、計二十二名にて、神戸・四国・広島方面へ研修視察を行いましたので、報告いたします。

【一日目】11/17
女満別空港～新千歳空港～関西国際空港～兵庫県神戸市

六時四五分、J Aバスにて、本所遠軽支所～安国経由で女満別空港到着。空港にて農協観光担当、今回



役員研修参加者ならびに添乗員の方々(ゆずの森加工場にて)

同行する添乗員と合流し、新千歳空港経由で関西国際空港へ到着。チャーターバスにて、本日の視察先、神戸市内の阪神・淡路大震災記念「人と未来防災センター」に到着。一九九五年一月十七日発生した大震災により、六四三四名の尊い命が失われ、映像や震災体験者からの話により、大震災の経験と教訓を未来に伝え、防災・減災社会の実現のために、一人ひとりが災害に対する正しい知識を身につけることを目的としており、普段の生活やJ A業務においても防災・減災に対する意識の重要性を感じました。

【二日目】11/18
兵庫県神戸市～明石海峡大橋～淡路島～鳴門海峡～香川県高松市

明石海峡大橋を通り、本日の視察先、淡路島の北淡震災記念公園「野島断層保存館」に到着。地震の原因となった、活断層である「野島断層」が動いたことにより、地面のずれが一〇kmにわたって表れたものを、道路や畑、民家・生垣のずれなどありのままに保存・展示しており、地震のエネルギーの大きさと自然の驚異を伝えていきます。震災体験館では、震度七を体験することができ、家具の激しい揺れなど改めて地震の恐ろしさを感じました。公園を後にして、鳴門海峡で「観潮船」に乗船後、香川県高松市内にある国の特別名勝に指定されている文化財庭園「栗林（り

つりん）公園」を見学しました。
【三日目】11/19
香川県高松市～金比羅宮～善通寺～（株）七宝～高知城～高知県高知市

四国で今年一番の寒さの中、全国的に信仰されている航海と商売繁盛の神様「金比羅宮」（通称：金比羅山）と、弘法大師が開いた四国霊場八十八寺院の内七五番目の「善通寺」を参拝後、本日の研修先である、県内三豊市、玉葱種子販売業者の「（株）七宝」に到着。

前日連絡し急な訪問でしたが、筒井副社長他四名に対応を頂きました。昭和二十七年、組合員二〇名で「七宝玉葱採取園芸組合」を設立、昭和四十七年組合を営業部門と育種部門を分離して「株式会社七宝」創立、農協系統を通じ、北海道及び全国四〇府県の玉葱主要産地へ種子を供給平成五年比布町に「北海道支社」を建設、平成六年に「スーパードット北もみじ」、平成十二年「北もみじ2020」、平成十七年「オホーツク2022」を販売。昭和四十八年「朝日農業省」、昭和六十一年「科学技術庁長官賞」受賞、全日本蔬菜原種審査会においても、農林水産大臣賞三回を初め、数々の受賞を受け、平成十一年には米国ウイリスコンシン大学へ二五万ドルを寄付し、育種家育成のため奨学基金を設立しています。同社のえんゆう農協においては、同社の種子を約九〇％使用しており、ネギア近年心配されることとして、



(株)七宝で研修を受ける役員各位

ザミウマの病気が増加して、媒介する病気として「えそ条虫病」「白色白枯病」が確認されており、登録農薬が少ないため今後の影響が心配されるとのことです。説明・質疑応答の後、近くの育苗圃場を視察することができました。バスは高知市に向かい、市内一豊が築城した高知城を見学し、市内のホテルに向かいましたが、途中日本三大がっかり名所の「はりまや橋」を見ることができましたが、小さくて本当にがっかりでした。

【四日目】11/20
高知市内～馬路村～桂浜～愛媛県松山市

本日の視察先である高知県内の全国的にも有名な、ゆずの産地「J A馬路村」へ向かう。大型バスが通るには、かなり狭い山道（一応県道であるが本道に狭く、林道かと思うくらいで、北海道では冬期間通行は絶対無理）で、対向車がくると途中何

秋季農事部懇談会が開催されました

十二月二日～六日にかけて、二十地区九会場で開催された秋季農事部懇談会が実施され、多くの組合員が出席しました。

懇談会では、今年度の作況、農協がおこなっている事業進捗度合い、今後の取組などを説明するとともに、組合員からの意見・要望が寄せられました。

主な事項についてお知らせするとともに、理事会において十分検討し、今後の事業推進に反映させてまいります。

なお、記載漏れ・内容不備があったときは、ご容赦願います。



農協に対して、多くの意見・要望が寄せられました
(写真は12月4日、5の1地区にて)

秋季農事部懇談会の主な意見・要望

【営農関係】

- 一、心土破碎の助成について今年度の対応はどうか。
 ↳ 昨年度天候不順により全く利用が無かったため、事業を本年度に繰越しております。
- 二、畑作関連のリース事業について、他の農協から比べ、当農協への配分が少ないのではないかと。
 ↳ 事業内容が当初説明から大幅に変更になっている。個人対応が不可となり、利用組合のみが対象となった。また、配分金額は町村別の大豆・麦の作付面積に対して配分なされたため、大豆を作付していない当農協の行政区に対しての配分が少なかった。
- 三、懇談会の開催時間について、酪農関係地区は午前中の開催にしてほしい。
 ↳ 次回から希望に添えるように検討いたします。
- 四、明渠事業の支線についてもう決定しているのか。
 ↳ 完全に決定している訳ではない。
- 五、コントラ事業において、遠軽地区にも自走モアコンの導入を願いたい。また、あわせて新人オペレーターの更なる教育を願いたい。
 ↳ 自走モアコンの導入については、希望面積を集約後検討したい。また、オペレーター教育については、作業時期前に運転の練習・研修を行いたい。
- 六、ストーンクラッシュャーの利用料金について値下げの方向で再考願いたい。
 ↳ 他の請負作業価格との兼ね合いもあり、利用頻度が少なく、維持経費が大きい機械の利用料金については下げることができない。
- 七、土壌分析事業の農協取扱いに対して詳しく説明願いたい
 ↳ 国・地方公共団体等が運営するもの以外は、環境計量士の資格が必要となったため、当面は中央会のガイドラインに沿った分析値提示と致したい。
- 八、今後資格を取得すべき努力をする。
 ↳ 家族経営では規模拡大の中で作業対応が難しくなってきたので、コントラクターの充実による対応を願いたい。
 ↳ 需要があれば、積極的に対応していきたい。
- 九、コントラ事業の料金設定について、面積割での対応をするのか、
 ↳ 過去検討したことはあるが、今まで通りにアワメーターでの産出としたい。
- 十、鹿・熊の駆除の対応をお願いしたい
 ↳ 従来と変わらず、地元猟友会に対しての助成を行っていきたい。

【農産関係】

- 一、小麦施設の更新をお願いしたい。
 ↳ 施設更新について詳しく説明願いたい。
 ↳ 今後、各集団の意見を集約して検討する。
- 二、ストーンピッカー・ストーンクラッシュャーを使用出来るようにしてほしい。
 ↳ 使用料および修理費等の採算が合わないため、現状渡しで売却予定。

三、春先の玉葱仮払いについて今後
も行っていくのか。
⇒今後も対応していきたい。

四、ヘリ散布の効率が悪いので今後
改善願いたい。
⇒改善出来るよう協議いたしま
す。

五、地区畑作農家の今後の作付作物
について、農協として方針を示
してほしい。
⇒地区で検討する作物について
農協として支援する。また、
収量増加を図るため、土地改
良なども行政と協議し検討す
る。

六、小麦施設新設について、最終的
な運賃・利用料等の見込みを出
してほしい。
⇒算出でき次第、お示しさせて
いただきます。

【畜産関係】
一、乳価の消費税アップに対する対
応はどうなるのか。
⇒内税での乳価となります。

【資材関係】
一、昨年まで取り扱っていた農薬が
本年度は取扱いが無いが、取り
扱うことは出来ないのか。
⇒当該商品は廃版となっており、

取り扱うことができない。

【その他】

一、ロシア（サハリン）への輸出に
ついて教えて欲しい。
⇒当農協はJ A湧別町に出荷。

玉葱の外品の一部で期間・量
ともに限定されている。

二、農協の財務内容について、利益
の還元だけではなく、農協とし
てきちんと内部留保すべき。
⇒今まで同様、積極的に進めて
まいります。

三、春先の援農について仕組みを作
って、今後でも対応して欲しい。
⇒災害時には今後でも対応してい
きたい。

四、利用高配当ではなく出資配当を
する考えはないのか。
⇒当面は利用高配当を中心とし
て、今後配慮・検討していき
たい。

五、新規就農者を募るために努力願
いたい。
⇒農協独自ではなく、行政機
関と協力して研修施設・受け入
れ機関の整備等に取り組んで
いきたい。

【秋季農事懇談会出席者】

| | 午 前 | 午 後 |
|----------|----------------|-------------------|
| 12月2日(月) | 4の3 12名 | 屯市・5の2・5の3 22名 |
| 12月3日(火) | 4の1・4の2 22名 | 開盛・札富美・旭 9名 |
| 12月4日(水) | 富美・上富美 15名 | 5の1 16名 |
| 12月5日(木) | 遠 軽 20名 | 生田原 11名 |
| 12月6日(金) | 丸瀬布・白滝 14名 | 合計 141名 |

出会い、暮らし、思い出。そして、別れ・・・。

人生最後の葬祭の儀式。
それは故人の哀悼の念を捧げる厳粛な場ではなくてはなりません。
えんがる斎場は、突然に訪れた予告のない儀式をつつがなく執り行うため、悲しみに暮れるご遺族
に、最良の方法と、こまやかな心くばりでご奉仕いたします。
個人葬をはじめ、多くのご会葬の方々をお迎えする大規模な社葬、団体葬など、宗教・宗派を問わ
ず、最新の設備で、葬祭に関するすべてのことをお手伝いさせていただきます。



〒099-0401 北海道紋別郡遠軽町学田2丁目6番地1

TEL (0158) 42-9898

FAX (0158) 42-9933

みんな楽しくお菓子作り体験 フレッシュユミズ一泊研修を開催

J A女性部フレッシュユミズでは十一月二十五日から二十六日にかけて、一泊研修を行いました。二十五日は札幌市西区宮の森にある白い恋人パークにて、参加した部員一名でお菓子作りを体験しました。



思い思いにクッキーをデコレーションします

いに絵や文字を書いたり、まわりを装飾したりして、お菓子作りを楽しみました。
出来上がった自分だけの「白い恋人」はおみやげとして持ち帰りました。
その後は、みんなで食事を楽しみ、翌日は札幌市内でショッピングなどを満喫して、有意義なうちに研修を終えることが出来ました。

北海道おみやげとしても有名な「白い恋人」ですが、ここではお菓子作り体験用に特別に作られた約一四cmのハート型のクッキーにホワイトチョコプレートでお絵描きが出来るコースを選び、各々の部員が思い

ボウリングで楽しく汗を流す フレッシュユミズ合同研修を開催

J A女性部フレッシュユミズでは十二月十日、オホーツクパレスホテル内にあるロイヤルボウルで合同研修を開催し、フレッシュユミズ部員二〇名が参加しました。



参加部員で記念撮影。たくさん楽しみました

そのためか一投一投に熱の入った真剣勝負となり、「やった！ストライクだ！」、「ええ、何で倒れないの〜」など様々な声、そして一投ごとにまわりの部員たちから大きな歓声があがっておりました。
そして、帰りの車中でも楽しい一時を振り返りながら、お喋りを楽しみつつ、帰路に着きました。

今回の合同研修では、みんなで昼

食をいただいた後、ボウリングをおこないました。
現在、えんゆう管内にはボウリング場がなくなってしまったことから、参加した部員の大半はひさしぶりのボウリングのようでした。

夢をかなえる北海道食材 食の大切さを学ぶ

JA女性部が星澤幸子氏の講演会を開催



今回講師を務めた
料理研究家の星澤幸子氏

JA女性部は、十一月三十日、ふるさと館JRY(湧別町北兵村一区)で札幌テレビのどさんこワイド「奥様ここでもう一品」に出演するなど道内外で幅広く活躍されている料理研究家の星澤幸子氏を迎え「夢をかなえる北海道食材」のテーマで講演会を開催し、JA女性部員や組合員約一〇〇名が参加して話に耳を傾けました。

星澤氏からは、「今、世界中が米を基本にした日本の食文化に注目しています。この身体に良いご飯とみそ汁を食べて下さい」と実際に炊き込みご飯とみそ汁をつくりながら話すとともに、「身体に良いものを食べて、自分の身体は自分で守ることが大切です」と話し、その他も様々な事柄を聴衆にユーモアを交えつつ話しておりました。

そして、「北海道にはバランスの良い食材があるが、製品化率は最も低く、原料を送って加工されたものを戻して売って

ますが、今は材料を買って調理する人が少なくなつたため、すぐに使える状態に加工して出荷することで商売が成立する時代です。だから皆さんが加工品をどんどん製品化してほしい」とも話しておりました。

参加者も星澤氏の話の時間を忘れて聞き入り、今回の講演会も成功裏のうちに無事終わることが出来ました。



星澤氏の講演に聞き入る女性部の皆さん



「食と農」「暮らし」「協同」「家族」の4つのテーマを大切に人・JA・地域の元気づくりを応援します。

◎連載企画

ふるさとの味を紡ぐ

わが家の自給力アップ&
庭仕事をもっと楽しく
家庭園芸

もっときれいになれる
大人のメイク塾

畑の情報便

やさしいハンドメイド

親と子の童話

願いをかなえよう!

3分でわかるJA講座

連載企画

きずなのか

～被災地で生きる～
東日本大震災からの
復興のために
全力を
尽くします。



※タイトル・内容は変わることがあります。

『家の光』定価(税込) / 普通月号 600円、付録月号(1・4・5・7・9月号) 880円、家計簿付き12月号 980円

お申し込みはJAへ 発行:家の光協会 ホームページ:<http://www.ienohikari.net>

全道JA青年部大会に参加してきました

えんゆう農協青年部は、十二月五日〜六日にかけて札幌パークホテルで開催された第六二回全道JA青年部大会に役員・事務局九名で参加してまいりました。

大会は、二日間に渡り全道各地から参集した青年部員ならびに来賓他、約六〇〇名が出席し、各地区で選ばれたJA青年部の代表が、農業に対する熱き思いを語る青年の主張大会や青年部の活動実績発表大会、分科会、さらに翌日の記念講演を拝聴して、知識を深めるとともに、全道の青年部員と親睦を深めました。



全道JA青年部大会に出席した青年部員

そして、JAえんゆう青年部も来年度にオホーツク管内で活動実績発表を控えていることから、自分たちの活動と比較しながら各青年部の発表を聞きました。

また、記念講演では、野口観光の野口秀夫社長から講演があり、野口氏は「これからは、価格から価値を競う時代になっている。消費者に高品質、高満足なものを提供していくことが重要です」と話し、若い農業者たちに「若い頃から常に自分が経営主の立場ならどうするかを考えながら農業をやってほしい」と激励しました。



記念講演では野口観光の野口秀夫社長から貴重な話を聞かせていただきました

最後におこなわれた本大会では、北海道農協青年部協議会からの活動経過報告があり、今後全道の青年部員とともに青年部活動の前進を図っていくことが確認され、盛会のうちに閉会となりました。

青年部酪農専門部 視察研修を開催しました

JAえんゆう青年部酪農専門部は、十一月二十八日から二十九日にかけて、視察研修を開催し、部員一名が出席しました。

今回は、札幌市にあるホクレン北海道農業協同組合連合会の本所生乳受託課におうかがいして、「北海道における生乳の流通」について、話を聞かせていただきました。

自分たちが毎日搾乳し、出荷している生乳が、実際にどのような流通経路をたどって、消費者の手元に届けられているのかを、わかりやすく説明



研修を受ける酪農専門部員

していただき、部員たちも真剣な面持ちで話に耳を傾けておりました。また、夜は部員同士の親睦を深めつつ、無事に視察研修を終えることができました。

子供たちと一緒にお団子とお餅づくり JA青年部が子ども農業体験学習を開催



力を合わせてじゃがいもをすりつぶします



青年部員も子供たちの調理を手助けします



「うまく焼けた?」「もうちょっとかな?」

JAえんゆう青年部では、十二月三日に子ども農業体験学習を上湧別小学校四年生一三名と一緒に開催し、過去三回の農業体験学習で種をまいて収穫した、かぼちゃとじゃがいもをつかって、調理加工実習をおこないました。

今回の授業では、子供たち自身で加工と調理して食べてもらうことで、子供たちに「食の大切さ」を知ってもらうことを目的としております。そして、今年は、学校の授業で農業体験学習と地域の歴史学習をあわせて学んでいることから、昔、よく食べられていた「かぼちゃだんご」と

「いももち」を作ることにしました。前回、一緒に収穫したとうもろこしは、乾燥させてから「どん菓子」を作る予定でしたが、干して乾燥させるのが間に合わないということで、後日、とうきびご飯にして食べるという話していただきました。

今回の授業は、子供たちも楽しみにしていたようで、開始前から笑顔が絶えず、授業が始まると子供たちは、事前に勉強したレシピを見ながら、調理を進めていきます。

青年部員も子供たちといっしょになって加工をおこない、給食の時間にいただ

きました。

青年部員も子供たちが作った料理を食べさせてもらいましたが、とても美味しかったです。そして、子供たちが笑顔で絶やさずに食べているのを見られたことが、何よりもうれしい限りです。

今年度の農業体験学習もこれで無事終了しましたが、来年度も引き続き食育活動の一環として実施していく予定です。今後とも青年部活動に対してご理解ご協力いただければ幸いです。

酪農学園大学地域交流推進協議会 蹄病講習会開催

湧別・遠軽・佐呂間地域の行政と3JA、NOSAIで構成される酪農学園大学地域交流推進協議会により、十一月二十七日にJAえんゆう本所で、蹄病講習会を酪農家と関係団体各二四名を集めて開催しました。今回の講習会は、今年三月と七月に開催した二回の講習会の続きとし

て開催されました。

まず、削蹄師からの提言として、えんゆう管内の酪農家の削蹄を多く手掛けている北海道畜牛削蹄センター社長の上家大氏から、「削蹄師からの提言」として、現場でおこなわれている作業とそこで見られる蹄病の症例について話があり、上家氏からは「牛と牛舎がキレイなこと」、「蹄や跛行牛にもっと関心をもつこと」が現場を知る削蹄師として、蹄病を減らす一歩に繋がるのではないかと提言がありました。

酪農学園大学の田口清教授の話聞く酪農家各位

続いて、酪農学園大学獣医学群生産動物医療学教授医学博士の田口清氏から、「蹄病におけるフットバスの有用性（趾皮膚感染症の予防）」と題して、講演がおこなわれ、蹄浴の有効性と現場における手順、手法、そしていかに個体をモニタリングして早期治療を心掛けていくかについて分かりやすく教えていただき、出席者も真剣に耳を傾け、話に深く頷いておりました。



上湧別産玉ねぎを仙台市内のスーパーでPR！ 上湧別玉葱振興会青年部がPR研修を実施

上湧別玉葱振興会青年部では、十一月二十八日に、宮城県仙台市内のスーパーで上湧別産玉ねぎを店頭PRならびに販売活動を実施しました。今回、部員三名とJA職員一名の合計四名がPRするために、前日に

上湧別を出発して新千歳空港から空路で宮城県仙台市に入り、翌日、上湧別産玉ねぎを取引していただいている仙台中央青果市場の協力を得て、仙台市太白区にある大手スーパーである西友ザ・モール長町店^{ながまち}で上湧別産玉ねぎをPRしました。

店頭PRにあたって、湧別町ならびにオホーツクをPRするために、湧別町から分けていただいたチューリップの球根とFromオホーツクの弁当箱・パンダナをセットにして、玉ねぎを買っていただいた消費者の方々にプレゼントをおこないました。

販売も開始と同時に多くの消費者の方にお買い求めいただき、盛況のうちに販売PR活動を終えることが出来ました。

店頭PR販売では消費者の方々に来ていただきました



TOYOTA SUZUKI SUBARU MITSUBISHI 全車種対象



新車得フェア

2014年
1月~3月末日登録分まで

乗用車 新車ご購入で 家族で嬉しい!ご成約で選んでもらえる!

もれなくプレゼント!

A フィリップス ノンフライヤー **B** レイコップ 布団クリーナー **C** 象印 ホームベーカリー **D** 農協旅行 旅行3万円分

プラス ホクレン エンジンオイル プレゼント!

エコカーに最適!

軽トラック 新車ご購入で **スタッドレスタイヤ 4本(ホイール付き) プレゼント!**

早期登録特典 1月・2月登録のみ **ガンリン 満タンで 納車!**

プラス ホクレン エンジンオイル プレゼント!

エコカーに最適!

*対象車は、2014年1月1日~3月31日までの登録分のみとなります。*乗用車専用。プレゼントの対象外とさせていただきます。*1台あたり1台につき、登録が間に合わない場合がございますので、必ずお申し込みまでご確認ください。

マイカーローン JAバンク

http://www.jabank-hokkaido.or.jp

フルマスター JA共済オリジナル お得な自賠責共済セット割引

★ご自身とご家族の保障 ★相手方への保障 ★お車の保障

JA共済

おクルマのことは JAグループにおまかせください! ●全道農業協同組合 ●JAバンク ●JA共済 ●ホクレン

お問い合わせは (株)えんゆう機械センターまで
TEL 01586-4-2100 FAX 01586-2-2762



発行日 平成26年1月1日
編集 中川菊夫
印刷 宮農協同組合
横田印刷株式会社

〒099-6501 北海道紋別郡湧別町上湧別屯田市街地230番地
TEL 01586-2-2161 / FAX 01586-2-4797
ホームページ http://www.ja-enyu.com
メールアドレス kikaku@ja-enyu.com

賀正



昨年中は御愛顧を賜り

厚く御礼申し上げます。

本年も旧に倍しての御愛顧の程

宜しくお願い申し上げます。

職員一同、皆様の御用命を

心よりお待ちしております。

平成二十六年 元旦

- (株) エーコープ えんゆう
- (株) ジェーエー えんゆう
- (株) えんゆう機械センター

平成26年度 営農計画書作成協議日程

本所・遠軽地区

| 日程 | 曜日 | 午前9時～午後12時 | 午後1時30分～午後4時 |
|-------|----|---|---------------|
| 1月17日 | 金 | 屯田市街地 (JA会議室) | 南兵村三区 (JA会議室) |
| 1月20日 | 月 | 南兵村二区 (JA会議室) | |
| 1月21日 | 火 | 北兵村一区 (JA会議室) | |
| 1月22日 | 水 | 北兵村二区・三区 (JA会議室) | 南兵村一区 (JA会議室) |
| 1月23日 | 木 | 上富美 (JA会議室) | 富美 (JA会議室) |
| 1月27日 | 月 | 札富美・開盛 (JA会議室) | 旭 (JA会議室) |
| 1月28日 | 火 | 栄野・湯の里・瀬戸瀬・若咲内 (会館) | |
| 1月29日 | 水 | 千代田・社名淵・美山・留岡・若松 (JA会議室) | |
| 1月30日 | 木 | 午前9時～午前11時 豊里・清川 (JA会議室) 午前11時～午後4時 学田・向遠軽 (JA会議室) | |

※協議日程の都合が悪い方は、別会場・別時間でも参加可能です。
但し、別会場希望の方は、事前に担当者までご連絡お願い致します。
尚、日程が変更になる場合は、都度連絡申し上げます。

●丸瀬布・白滝・生田原地区につきましては、1月10日以降、個別にご連絡させていただきます。